

福島

FUKUSHIMA

第3回

第2部

古戦場に秘められた 会津戦争の真相

明治に花咲かせた会津人の「義」のこころ

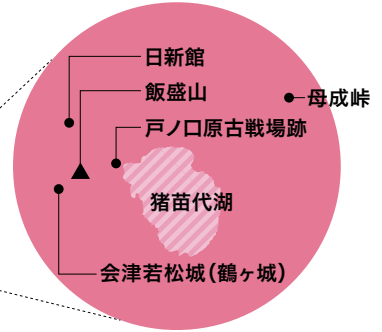
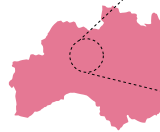
2018.11.23(FRI) 16:30

スベンサー銃(部分/会津新選組記念館蔵)

FUKUSHIMA



日新館



戊辰戦争 略年表

嘉永5(1852)年	閏2月25日	松平容保、9代会津藩主となる
嘉永6(1853)年	6月3日	アメリカのペリーが浦賀沖に来航
嘉永7(1854)年	3月3日	ペリーと日米和親条約締結
安政2(1855)年	12月21日	日露和親条約締結。国境が確定する
安政6(1859)年	9月27日	会津藩など6藩が蝦夷地開拓・警備に
安政7(1860)年	3月3日	桜田門外の変。大老・井伊直弼が暗殺される
文久2(1862)年	閏8月1日	松平容保、京都守護職を命じられる
文久3(1863)年	3月13日	新選組の前身「浪士隊」が京都守護職配下となる
	5月10日	下関戦争勃発。長州藩が大敗
元治元(1864)年	7月19日	御所で禁門の変が起こる
慶応2(1866)年	1月21日	坂本龍馬の仲介で薩長同盟が成立
	7月20日	徳川家茂が死去。慶喜が15代将軍に
	12月25日	孝明天皇が死去。明治天皇誕生
慶応3(1867)年	10月14日	大政奉還
	11月15日	坂本龍馬が暗殺される
	12月9日	大政復古の大号令 会津藩は伏見奉行所と大坂城へ移る
明治元(1868)年	1月2日	会津藩は大坂城から伏見へ増援部隊を派遣
	1月3日	鳥羽伏見の戦い。旧幕府軍15000人、 新政府軍5000人の戦い
	2月22日	松平容保、会津に帰り謹慎する
	3月10日	フランス人の指導により会津藩は軍制を 改革。このころ江戸無血開城
	4月25日	新選組局長近藤勇が板橋刑場で処刑される
	5月1日	白河城が新政府軍に占領される
	5月3日	奥羽越列藩同盟が成立する
	5月15日	上野で彰義隊が新政府軍に鎮圧される
	7月29日	二本松城、長岡城落城。新潟港陥落
	8月21日	会津藩、母成峠で敗れ領内に進攻される
	8月23日	戸ノ口原で白虎隊が敗れ、飯盛山で自刃
	8月25日	娘子軍が東城戸で戦い、敗れる
	8月26日	新選組の土方歳三が会津を去る 斎藤一により会津新選組が誕生
	9月14日	会津若松城総攻撃
	9月22日	会津藩が白旗を掲げ降伏し、開城となる
	9月29日	南会津において会津藩の戦いが終結
	10月19日	松平容保父子、東京へ移送となる
明治2(1869)年	1月6日	会津藩士は越後高田と東京へ移送される
	11月3日	11代藩主松平容大、御家再興を許され 斗南藩3万石が与えられる

資料提供/石田明夫

講師：石田明夫氏



昭和32年、福島県生まれ。会津若松市の職員として会津の歴史研究に従事。大河ドラマ『天地人』の時代考証に携わる。『八重と会津戦争』(洋泉社)、『新島八重を歩く』(潮書房光人新社)など共著多数。現在、会津ユネスコ協会事務局長、会津古城研究会会長など。



会津の城 戦国時代から戊辰戦争までの城と戦場 石田明夫共著(会津古城研究会)

会津の遺構を中心に現地調査を行う会津古城研究会が、中世の山城や戊辰戦争の陣地跡などを解説。一步踏み込んだ会津の歴史に触れられる。



1 陣地跡から見えてくる 白虎隊の戦いの光景

歴史の解明では史料が重視されるが、それだけでは分からない部分も多い。戊辰戦争の局地戦で、最も激しい戦闘といわれる会津戦争。白虎隊の悲劇で知られるも、彼らがどこでどのように戦い、飯盛山での自刃に至ったのかを知る人は、あまりいない。ところが、白虎隊が新政府軍と銃撃戦を展開した戸ノ口原には陣地跡が今も残り、戦いの実相がよく分かる。胸壁と呼ばれる



戸ノ口原の塹壕跡。ここに白虎隊が身を潜めていた

との距離、作戦を変更した過程などが、当時の光景さながらに浮かび上がってくる。母成峠を破り、会津若松城下を目指す新政府軍との戦いは、明治元(1868)年8月23日の朝に始まった。しかし、戦闘前から会津軍に不測の事態が重なり、結局は敗走を強いられる。古戦場が物語る、白虎隊の奮闘に迫る。

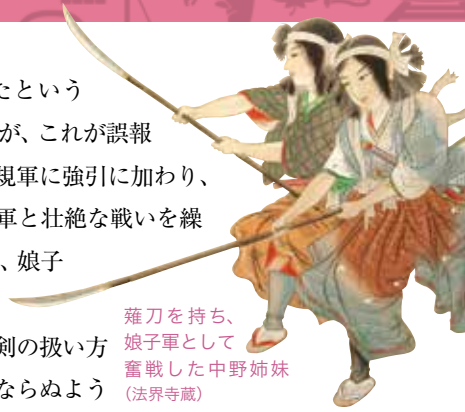
2 女性たちの籠城戦 翻弄された娘子軍の悲劇

8月23日から、会津藩はおよそ1か月の籠城戦に入る。城内では女性たちも活躍した。食事や負傷者の世話ばかりではない。1日に1万発の弾丸を造り、中には軍服を着て銃撃戦に加わる者もいた。一方、籠城に間に合わず、戦いに翻弄された娘子軍の悲話もある。娘子軍は藩士の娘であった中野竹子・優子らを



擁する20人余りの私設部隊。指揮者はなく、
戊辰戦争で実際に使われたという会津藩の軍旗(会津若松市立会津図書館蔵、会津若松市提供)
薙刀を扱える婦人の一団に過ぎなかった。

藩主の姉・照姫が逃れたという会津坂下へ警護に向かうが、これが誤報だった。そして会津の正規軍に強引に加わり、城下に戻る途中、新政府軍と壮絶な戦いを繰り広げる。会津戦争では、娘子軍のほかにも多くの女性が戦っている。銃や刀剣の扱い方を知らず、足手まといにならぬよう自刃した者もいた。悲劇は、白虎隊のそれだけにとどまらない。



薙刀を持ち、娘子軍として奮戦した中野姉妹(法界寺蔵)

3 新時代の逸材を生んだ 会津藩校・日新館の教育

降伏後、会津藩は厳しい処分を受けた。だが明治になると、その不遇を乗り越えて、会津の地から多くの逸材が世に出た。



日新館には「水練水馬池」という泳法を学ぶためのプールもあった

後に東京帝国大学総長を務めた山川健次郎、同志社大学の創立に尽くした新島八重などが著名だが、民間の出で活躍した人物の代表格は、瓜生岩子だろう。商家に生まれ、戊辰戦争下では敵味方なく、負傷者を救護した。後に窮民や被災者を救う社会活動に尽力し「日本のナイチンゲール」と呼ばれた人である。明治期の会津人の活躍、その背景には日新館の存在がある。江戸



後期、名家老と謳われた田中玄宰が創設した藩校。天文学や蘭学など最新の学問を取り入れ、利害を捨てて人道に従う「義」の精神を重んじた。会津藩士の子弟が学ぶ心得「什の掟」を基本としたその教育が、戊辰戦争の敗戦を乗り越える原動力となったのである。



『会津若松戦争之図』。総攻撃が始まると、会津若松城に1日約2500発の弾丸が打ち込まれたという(会津新選組記念館蔵)

古戦場に秘められた会津戦争の真相 明治に花咲かせた会津人の「義」のこころ